

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第936号 平成27年5月26日

学歴はそんなに大切か

2月10日付朝日新聞の投書欄に、17歳高校生の「学歴はそんなに大切なのですか」という投書が掲載されていますので、今日は、この高校生の疑問について考えてみたいと思います。

まず、高校生の投書の概要を紹介して置きたいと思います。

家庭環境が子どもの学力に影響するという。本当だろうか。両親は高卒である。親の学歴と、この学力が比例するという話を聞くと、くやしい。

私は、高校卒業後は就職を考えている。学歴は両親と同じ高卒となる見込みだ。だが、大切なのは学歴なのだろうか。

確かに学力は大切だと思う。知識がなければ、社会でお金を稼ぐのもたいへんだというのはわかる。だから、高卒で就職しても、我が子の学力に影響しないよう、残る高校生活で勉強を大切にしたい。

「学歴はそんなに大切か」と投書した高校生の本心を覗く事は出来ませんが、彼は大学に進みたいと思っていたのではないかと、私は想像しています。だから、この投書を読んでいると、自分の力ではどうにもならない現実に対する感情の高ぶりを感じます。しかし、この高校生は自分の置かれている現状に対して諦めたりせず、自分なりに出来る事をしていくという強い意志を感じますので、彼には、是非その気持ちを忘れずに前に向かって進んで欲しいと願っています。

さて、この高校生の「学歴はそんなに大切か」という問いに対して、私はどう答えるべきかずっと考えて来ました。

答えは、率直に言えば2つあります。その一つは「学歴は大切です」という答えであり、もう一つは「学歴は大切ではない」という答えですが、答えを云々する前に、まず、「学歴」とは何なのかを整理して置く必要があると思います。

「学歴」というのは、本来は「学業に関する経歴（広辞苑）」を意味します。

つまり、大学であれ専門学校であれ、はたまた高校であれ、それぞれの学校を卒業したという事は、それぞれのレベルに応じた知識・技能（つまり学業）を身に付けたという事を示すものと受け止めれば、「学歴は大切だ」という事になります。

私は、新しい知識・技能を得、また、知識・技能を更に深めて行くという事は自分の住む世界や活躍の場を広げる事に繋がりますので、機会と能力があるなら、大

学等の高等教育機関で積極的に学ぶべきだと思っています。

ただ、「学歴」は、上述の通り「学業に関する経歴」という事ですから、少なくとも、その人の人格や人間性を表すものではないという事は、いうまでもありません。従って、例えば、難関大学を卒業した人は頭の出来は良いだろう事は容易に想像付きますが、その人が人間的に魅力があって、素晴らしいかどうかは、また別の話です。

また、「学歴」については、「学業に関する経歴」というより卒業した学校の履歴を示すものとして受け止められているのが実態ではないかと思えます。

大学について見ると、国内には東京大学等の難関大学、明治大学や慶応大学等の有名私立大学、二流、三流の地方大学と沢山の大学がありますが、学生がどの大学を卒業したかという事は、その学生の知識・技能のレベルを客観的に示すものでないにもかかわらず、現実には、東京大学卒業といわれると、殆どの人は「それは凄いな」と思い、相当に頭が良いのだろうと受け止め、地方の小さな二流大学を卒業したとなると、「あの大学は偏差値も低いし、その大学を出たというのなら大した事はないな」といった具合に、どの大学を出たかという「学校歴」と学生の「知識・技能（学業）のレベル」とを重ね合わせて見てしまう傾向が強いと思えます。

しかし、同じ大学を出たといっても、知識・技能のレベルには当然個人差がありますし、地方の小さな大学を出た学生の中にも、非常に優秀で、力のある人は沢山いる訳で、「学校歴」だけでその人の能力を評価するのは非常に問題だと思っています。まして、コミュニケーション能力や想像力、積極性といった、人間的な魅力に関しては、どの学校を出たかというだけで推し量る事は困難であり、馬鹿げています。

現在、採用試験に当たって「学校歴」を問わない企業が増えているのはそのためだと思いますし、全ての企業がそうあって欲しいと思っています。

つまり、大事な事は「学校歴」ではなく、学校で何を学び、どのような活動をし、どのような力を身に付けたかという事であり、中身の無い、卒業証書という形だけの「学歴」ならば、後生大事に持っていたとしても意味はありませんし、私はそんな「学歴」なら大切だとは思いません。

私がかつて勤務していた北海道庁では、高校しか卒業していないのに大学卒業者と何ら遜色ない、あるいは、大学卒業者を凌駕して活躍した先輩と幾人も出会いました。勿論、そうした先輩達が払った努力は、並大抵のものではありません。大学卒業者なら簡単に登れる道も、高校卒業者であるために別の困難な道を登らなければならないという事は往々にしてあります。それを嫌い、リスクを恐れて厳しい道を登るのを諦めるか、それとも、自分の可能性を信じて努力するか、いずれの道を選択しても、それはそれで一つの人生です。

厳しい道を選択したからといって、頂上に立てる保証はありません。それなら努力しても仕方ないと思うかもしれませんが、しかし、楽な道だけを歩いていたのでは頂上に到達する事は困難であり、結果だけを求めても得られるものは少ないというのが、私が70年近い人生を生きて来た教訓です。

投書した高校生は、自分自身に挑戦しようとしているように感じます。その気持ちがある限り、彼は与えられた環境の中で努力し続けるだろうと思います。

ただ私は、彼が高校卒業というものに拘泥しているのは、本当は大学に行きたいという気持ちの裏返しなのではないか感じています。もしも彼が、大学で勉強したいと思うのなら、そう出来る可能性を探るべきです。例えば、夜間大学や通信制の大学があり、そこで学んでいる学生も沢山います。

どんな形であれ、学びたいと思うなら、そのためのチャンスはある筈だと思います。仮にもせよ、投書した高校生が「夜間大学や通信制の大学は昼間の大学とは違う。あくまで昼間の大学に行きたいけれど行けないので大学進学を諦めた」という事であれば（そうでない事を祈りますが）、彼自身「学歴」ではなく「学校歴」に拘っている事になりはしないでしょうか。

（塾頭：吉田 洋一）